

令和6年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育の概況	小麦の成熟期は平年並から2日程度早まった。出穂期以降降雨により、倒伏が多く、赤かび病が平年より多く見られる。収穫期には高温が続き、水分が低い傾向で、刈り遅れによる退色等の品質低下が懸念される。細粒傾向で地域により差があるが、作柄は「並」が見込まれる。
作業の進捗状況	調製

1 気象経過 (前橋橋地方気象台データの平年比、※6月は20日まで、参考資料参照)

項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
平均気温	+1.3℃	+1.7℃	+1.9℃	+2.0℃	±0.0℃	+3.2℃	+0.7℃	+1.5℃
降水量	79%	59%	96%	238%	177%	98%	162%	134%
日照時間	115%	110%	108%	92%	104%	87%	112%	153%

2 生育概況

(1) 概要

初期生育は順調で、播種が早かったほ場を中心に草丈、茎数は平年を上回り、麦踏みの開始時期も早まった。2月は気温が著しく高く推移し、平年より生育が大幅に早まったが、3月は一転して低温傾向が続き生育が緩慢となり、出穂期は小麦、二条大麦、六条大麦ともに平年並から2日早まる程度となった。稈長が長い傾向であり、3月下旬以降降水量が多く、畑麦を中心に倒伏するほ場が散見され、倒伏程度の大きいほ場では刈り取りを断念しているほ場も見られた。成熟期は標高が高い地域を中心に一部遅れたものの、二条大麦、小麦は平年並から2日程度早く、六条大麦は平年並みとなった。収穫期には高温が続いたことから急速に成熟が進み、収穫時の水分が低い傾向で、刈り遅れによる退色等の品質低下が懸念される。

小麦では、出穂期以降の高温とまとまった雨により、赤かび病が県域全体で平年より多く発生しているが、発生程度は微～少程度となっている。

各麦種とも細粒傾向であるが、収量は二条大麦、小麦では地域により差があるものの平年並、六条大麦ではやや少ない。品質は二条大麦、六条大麦では平年並からやや不良で、小麦では平年並。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

雑草の発生が多い(イタリアンライグラス、カラスノエンドウ、カラスムギ等)。倒伏は平年より多い。病害は、県域全体で赤かび病が微～少発生。畑麦でなまぐさ黒穂病がやや多く発生している。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほ(さとのそら)のデータの平均は、播種期は11月23日(過去平均比+2日)、出穂期は4月17日(同±0日)、稈長は81.6cm(同107%)、穂長は8.8cm(同105%)、穂数は718本/m²(同107%)、収量は598kg/10a(同112%)となっている。(表1)

農業技術センターの生育基本調査結果(小麦「さとのそら」、11月15日播種)では、出穂期は4月16日(同-5日)、稈長は87cm(同110%)、穂長は9.3cm(同103%)、穂数は578本/m²(同121%)、成熟期は6月1日(同-6日)、千粒重は35.2g(同93%)、収量は512kg/10a(同110%)であった。(表2)

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、中部、伊勢崎が「並～やや良」、西部、東部が「並」、館林が「やや不良」であり、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。（表3）

表1 小麦作況調査結果（さとのそら）

地 区	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	千粒重 g
平 均	4/17(±0)	6/3(-1)	81.6(107)	8.8(105)	724(108)	598(112)	35.4(95)
前 橋 市	4/16(-)	6/4(-)	82.7(-)	9.4(-)	713(-)	629(-)	36.0(-)
伊勢崎市	4/15(±0)	6/5(+1)	79.8(111)	8.3(102)	731(134)	585(132)	37.8(100)
高 崎 市	4/17(+3)	6/1(-2)	79.0(111)	8.7(109)	646(104)	- (-)	- (-)
太 田 市	4/19(-2)	6/4(-1)	81.4(107)	9.1(113)	482(79)	555(107)	35.0(94)
千代田町	4/17(-1)	6/4(-2)	86.3(101)	9.1(97)	1037(113)	654(103)	33.4(90)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

*日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市はほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去2年、高崎市は同4年、太田市は同10年、千代田町は同2年の値。前橋市は県平均から除外した。

表2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月/日	節間伸長始期 月/日	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	千粒重 g
11/15 (±0)	3/14 (-7)	4/16 (-5)	6/1 (-6)	87 (110)	9.3 (103)	578 (121)	512 (110)	35.2 (93)

※ () 内は過去10年の平均に対する日数および比率(%)

表3 農畜産課・地区農業指導センター管内の麦類（小麦）の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並～ やや良	並～ やや良	並	並	やや不良

3 技術対策

(1) 調製の徹底による良品質化

登熟中の高温、降雨、二段穂等の影響により細粒・未熟粒・硬質粒が見られることから流量等に留意するとともに、必要に応じて色彩選別機等を活用して丁寧に調製する。フルイ目はビール大麦が2.5mm、六条大麦（食用）と小麦が2.0mmを基準とし、必要に応じてフルイ目の調整を行う。乾燥仕上がり水分はビール大麦・六条大麦が13%以下、小麦が12.5%以下とする。

(2) 次年産小麦の技術対策

ア 特に排水不良田では、可能な限り暗きょや明きょを施工し、ほ場内の滞水防止を図るとともに、播種が遅れないよう計画的に作業を行う。

イ 深耕の実施や有機物の投入により保水性を高めるなど、土作りや適正な施肥を行い生育の健全化を図る。

ウ 適期播種に努め、早播は凍霜害を受ける危険性が高まるため行わない。

エ 規模拡大に伴い、作業の遅れや適正管理ができていないほ場が増加している。経営規模に応じた機械装備と人員配置に配慮し、適期作業・適正管理を心がける。

オ 除草剤は播種後速やかに散布する。除草効果を高めるため、十分な碎土と鎮圧を行った上で処理する。春先に雑草が多い場合は草種に応じた除草剤を選択し、適期に散布する。イタリアンライグラス、カラスノエンドウ、カラスムギなどは体系処理等を行い、残草した場合は確実に抜き取りを行う。

カ 麦踏みは適正に行い、暖冬年は通常年より多めに実施する。

キ 近年、施肥量が不足している小麦ほ場が多く、枯れ熟れの発生要因にもなっている。品種に応じた施肥量を遵守するとともに、追肥は生育量に応じて必ず実施

- し、収量確保とタンパク質含量の安定を図る。
- ク 種子消毒、赤かび病および雑草は適期・適切に防除を行う。
- ケ ほ場において赤かび病、なまぐさ黒穂病、穂発芽の発生が認められた場合は、健全麦への混入を回避するため別収穫とし、乾燥調製施設等への搬入は行わない。
- コ 適期収穫に努め、刈り遅れには十分注意する。成熟期後に長雨が予想される場合は、収穫可能なほ場では極力収穫をすませる。

【参考資料】

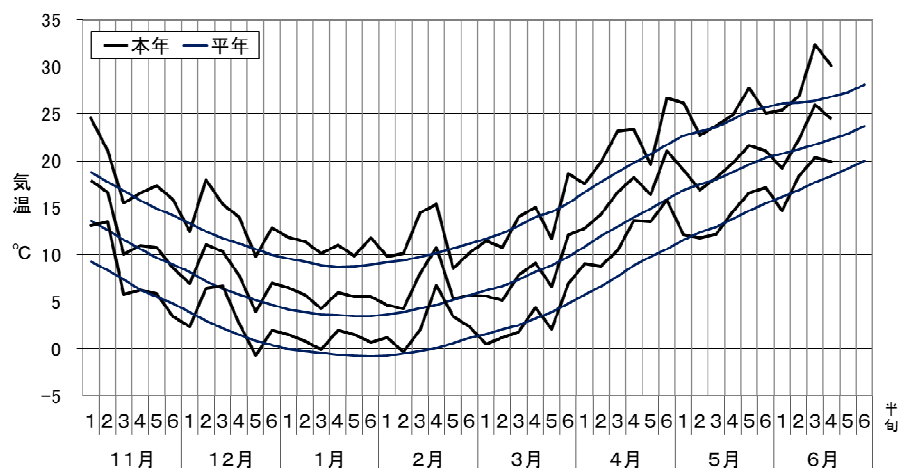


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

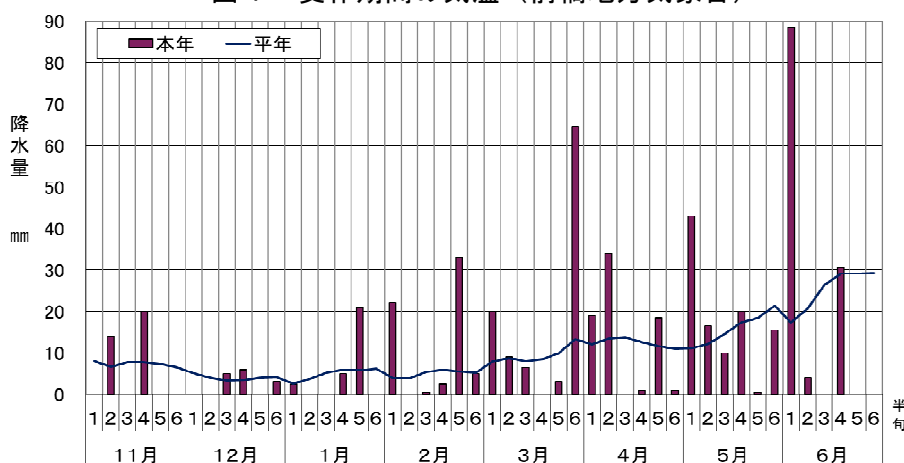


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

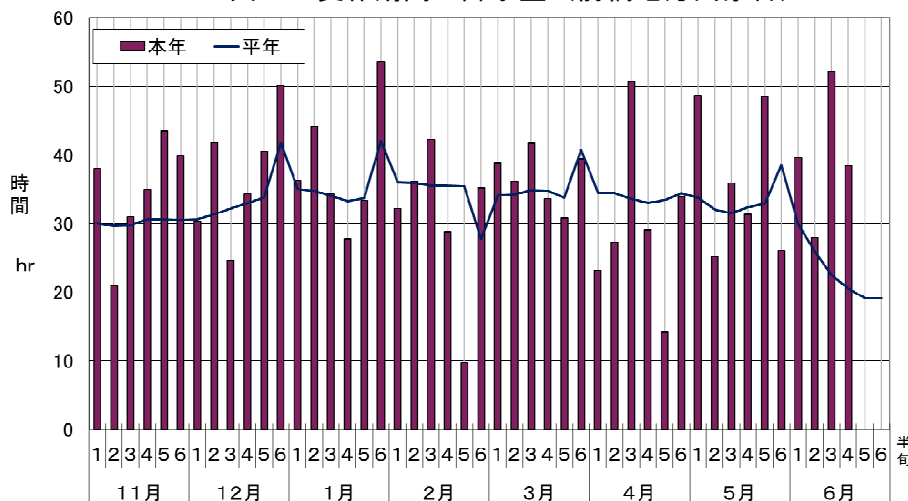


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）